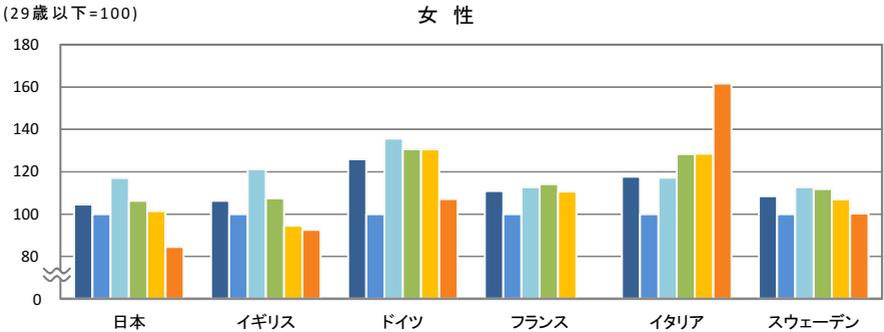
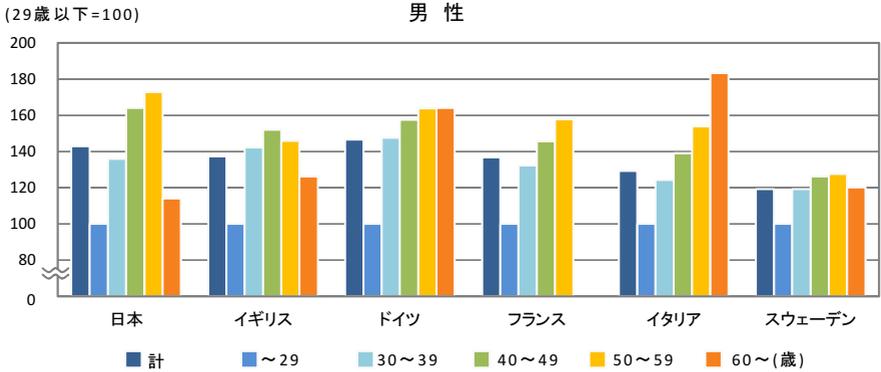


5-3 年齢階級別賃金格差（製造業）



▶ グラフの具体的数値及び資料出所については、「第5-12表 年齢階級別賃金格差（製造業、2002年）」(p.182)を参照。

上のグラフは日本、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スウェーデンについて、29歳以下の賃金を100としたときの年齢階級別賃金指数(格差)を示したものである。

まず男性についてみると、日本では、年齢階級が高くなるにつれて格差が広がり、50～59歳で最大約1.7倍となるが、60歳以上になると縮小する。日本以外の国々では、29歳以下賃金との最大格差を持つ年齢階級層は、イギリスでは40～49歳層(1.5倍)、ドイツでは50～59歳及び60歳以上層(1.6倍)、フランスでは50～59歳層(1.6倍)、イタリアでは60歳以上層(1.8倍)、スウェーデンでは50～59歳層(1.3倍)となっている。他方、女性の場合は、男性に比べて年齢階級間の賃金格差は概して小さい。

これらの数値を理解するためには、年齢階層別の労働力率もあわせてみる必要がある。とりわけ、EU諸国において高齢者の労働力率が低いことに注意すべきである。